

施策

4-1



立志と将来への希望を育む 学校教育の充実

施策で目指す姿

- 児童生徒の夢実現のため、学力向上やキャリア教育*の充実、きめ細かな教育支援に努めるとともに、教職員の資質向上に努めます。
- 自他を思いやる気持ちや高い規範意識*を身に付け、社会で自立できる、健康でたくましい人材の育成を目指します。
- 地域や関係機関と連携した学校支援体制を構築し、特色ある教育活動を推進するとともに、安全・安心な教育環境の整備に努めます。
- 国分中央高校は魅力ある専門高校として、歴史・伝統を継承しつつ、時代と社会の変化に対応できる人材の育成を目指し、さらなる活性化に取り組めます。

施策の現状と課題

児童生徒の学力向上と教員の働き方改革

現状 ●本市の児童生徒の各種学力調査の平均通過率*は、全国や県の平均を下回る教科もあります。
●働き方改革により、教員の在校等時間の削減が進む一方、新たな課題に対応するため業務量が増えるケースもあります。

課題 ○授業によって身に付く学力や技能等を焦点化し、主体的・対話的で深い学びにつながる学習を推進する必要があります。
○教員の資質向上やICT*機器を活用した業務効率化等に取り組む必要があります。

人間関係の希薄化

現状 ●価値観の多様化や社会情勢の変化等により、学校生活での人間関係が希薄化していることから、様々な機会を通じて、児童生徒の悩みや相談に対応できる場を設定しています。

課題 ○児童生徒の悩みや相談への迅速な対応、児童生徒が関わる複雑・多様な問題について、関係機関等との連携を密に図る必要があります。

特色ある教育活動の推進

現状 ●規模や地理的状況の違いにより、学校が抱える問題は異なるため、人的・物的環境を同じ水準で整備することは困難な状況です。

課題 ○学校と連携しながら、実態に応じた特色ある教育活動や支援環境整備に取り組む必要があります。

魅力ある市立高等学校づくり

現状 ●市立国分中央高校では、時代のニーズに応じた施設の整備や、多様な進路目標への対応を推進する一方、少子化の進行により定員確保が難しくなっています。

課題 ○引き続き、施設や設備の整備、主体的な進路選択ができる進路指導の充実、定員確保の強化を図る必要があります。

施策で目指す姿を実現するための基本事業

1

総合戦略

夢実現のための学力の向上と個性を育む教育の推進

- 将来の夢や希望する進路を実現するため、学力の定着や企業と連携したキャリア教育の充実を図ります。
- ICTを活用し、教員の資質向上や働き方改革、児童生徒の情報活用能力の育成に取り組めます。
- 個別最適な学び*と協働的な学び*を推進するとともに、特別な支援や配慮を要する児童生徒を支援し、誰一人取り残さない教育の充実を図ります。



2

豊かな心と健康な体を育む支援体制の充実

- 全ての児童生徒が自己肯定感*や自己有用感*を高め、自他を大切にすることを育む、魅力ある学校づくりを目指します。
- 一人一人の個性・ニーズに応じた支援や、悩み等への相談体制の充実、合理的な配慮*を通じて、社会的な自立の推進や健全な心身の育成に努めます。



3

多様な教育活動・支援環境の充実

- 特色ある教育活動や地域人材との交流、地域素材を生かした体験活動などを通じ、郷土を愛する心を養い、社会に貢献しようとする子どもを育成します。
- 学校施設の適切な整備とともに、特認校制度や山村留学制度*、就学援助、長距離通学補助など、児童生徒の教育的・経済的な支援制度の充実・周知を図ります。



4

総合戦略

専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実

- 各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性、教育水準の維持向上を図るとともに、学科間の連携した取組を推進し、地域に信頼される魅力ある学校づくりに取り組めます。
- 歴史・伝統を継承しつつ、時代のニーズに応じた高度な専門的技術や知識を持った人材の育成に努めます。
- 進路指導の充実を図るとともに、募集定員の確保に向けた取組を強化します。



こがわい

くろこ

やまぐわ

はぐくみ

きまごころ

しんらい

「みんなができること」

everyone can do it!



市民一人一人で

- 「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、基本的な生活習慣や家庭学習、運動の習慣化を推進しましょう。
- 子どもの行動をよく観察し、褒めたり叱ったりして関わりを持ちましょう。
- 親子で市内の産業や企業等に関心を持ちましょう。



地域で

- 学校と連携した登下校時の見守りやあいさつ運動等に積極的にに関わり、それを継続しましょう。
- 子どもたちが学びを生かして地域活動に参加できる機会をつくり、その取組をみんなで応援しましょう。



事業所で

- 職場体験や企業見学などを通して、地元で働くことの魅力を紹介します。



INTERVIEW スクールガードリーダー
みなみとおる 南通 さん



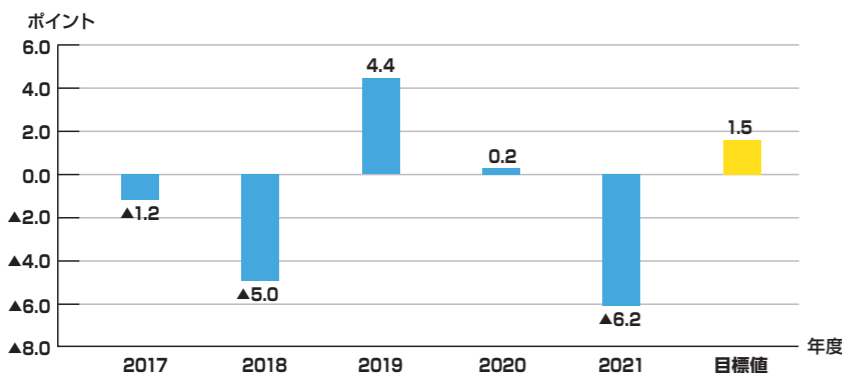
子どもとの触れ合い
元気のもとに

子どもたちの安全に貢献できればと、霧島・国分地区の7つの小学校で登下校時の立哨と巡回パトロールを続けて16年。止まってくれた車におじぎをしたり、元気にあいさつをしたりする姿に元気をもらっています。これからも、地域活動や学校行事などを含め、私にできることで子どもたちの力になりたいですね。

施策の進捗状況を測るためのKPI

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	54.2% (2022) ↑	65.0%
学習定着度調査※における平均通過率※の県との比較	-6.2ポイント (2021) ↑	1.5ポイント
規範意識※の高い児童生徒の割合	88.9% (2021) ↑	90.0%
体力テスト(小中学校)における平均値の県との比較	-1.5ポイント (2021) ↑	1.7ポイント

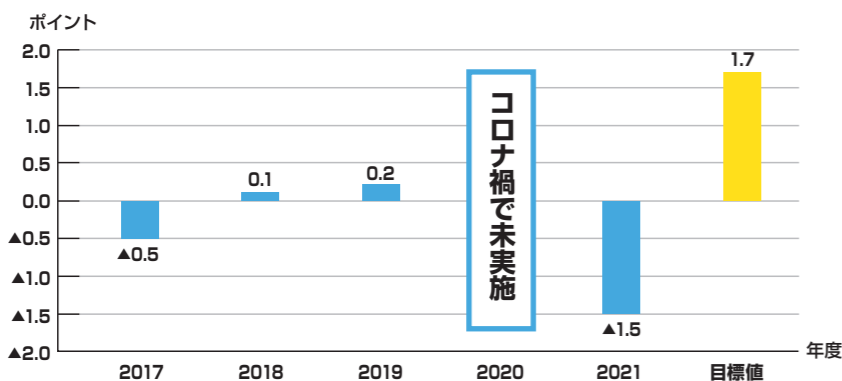
学習定着度調査における平均通過率の県との比較



県と市の結果を比較。結果は毎年大きく上下しているが、基礎学力の定着を図ることで、前期基本計画と同様に、県平均を1.5ポイント上回ることを目指す。

出典：鹿児島県「鹿児島学習定着度調査」

体力テスト(小中学校)における平均値の県との比較



県と市の結果を比較。毎年大きく上下しているが、基礎体力の定着を図ることで、前期基本計画と同様に、県平均を1.7ポイント上回ることを目指す。

出典：鹿児島県「児童生徒の体力・運動能力、運動習慣調査」

Column 「特認校制度」とは

「特認校制度」とは「小規模校特別認可制度」のことで、本来就学すべき学校以外の、過疎化が進んでいる地域の学校に、一定の条件の下、特別に就学(転学)を認める制度です。多くの特認校では、豊かな自然環境の中、少人数規模で地域の特色を生かした様々な教育活動が行われています。

この制度を利用して、本市では令和4(2022)年度に62人の小学生と17人の中学生が11の特認校に通っています。特認校に興味がある方は、まずは在籍校にご相談ください。

学校名	所在地	児童生徒数
木原小学校	国分郡田3592	17人(3学級)
川原小学校	国分川原2654	9人(3学級)
平山小学校	国分川内3053	9人(3学級)
塚脇小学校	国分上之段2284	11人(4学級)
竹子小学校	満辺町竹子859	24人(4学級)
佐々木小学校	横川町下ノ920-6	6人(2学級)
中津川小学校	牧園町上中津川11282	17人(3学級)
持松小学校	牧園町持松11	9人(3学級)
永水小学校	霧島永水3811	23人(5学級)
小浜小学校	隼人町小浜4774	27人(4学級)
中福良小学校	隼人町嘉例川11831-1	22人(4学級)
福山小学校	福山町福山2962-1	10人(4学級)
木原中学校	国分郡田3592	14人(3学級)

(2022年5月1日現在)

関連個別計画	個別計画名	計画期間
●	第二次教育振興基本計画	2020~2024

施策
4-2



多様な学びを支援する 社会教育の充実

施策の現状と課題

郷土愛の醸成と生きる力の育成

現状 ●本市の豊かな自然や歴史・文化を学ぶことで、郷土愛を醸成するとともに、異年齢集団による宿泊体験活動を通じて、自律性・協調性の育成に取り組んできました。

課題 ○児童生徒それぞれが夢や目標を持てるように、将来の仕事につながる職業体験を取り入れた事業を展開する必要があります。

家庭教育力の向上

現状 ●地域における人とのつながりや地域に対する関心が希薄化してきているほか、少子化や家族形態の変化により、家庭内において規律・マナーや思いやりを学ぶ機会、親子間のコミュニケーションを図る機会が減少しています。

課題 ○社会生活の基礎となる規律やマナー、生活習慣などを身に付けるため、家庭教育力の向上や、地域ぐるみで見守る環境づくりが求められています。

学習環境の整備と学習機会の充実

現状 ●社会教育施設においては、老朽化が進む公民館などの修繕等に対応するとともに、図書館やメディアセンター等の機能充実に努めてきました。
●公民館講座は、新規講座を開設するなど充実に努めてきました。

課題 ○安全・安心に公民館等を利用できるよう、適切な施設の維持管理を行うとともに、図書館やメディアセンターの利用を促進する必要があります。
○OSDGsやライフステージ*に対応した魅力ある講座の開設が求められています。

文化財の保存・継承の推進

現状 ●本市は史跡や歴史的価値のある建造物、郷土芸能など豊かな文化財を有しています。
●少子高齢化による担手不足や生活様式・価値観の変化等により、文化財の保存・継承が困難になっています。

課題 ○積極的な文化財の発信・活用等を通して、郷土に誇りを持つ心の醸成、後継者の育成等が求められています。

施策で目指す姿

- 体験活動等を通して、心身共にたくましい「きりしまっ子」を育成し、子どもたちが夢や目標を持てるような取組を推進します。
- 地域学校協働活動の推進や家庭・地域の教育力の向上により、地域ぐるみで青少年を育成する気運を醸成します。
- 市民の学習のための環境や内容の充実、成果の還元、情報の提供に努めます。
- 文化財に触れ、学ぶ機会を積極的に設けることで、郷土に誇りを持つ心の醸成や文化財の保存・活用を図り、貴重な遺産を後世に伝えます。

施策で目指す姿を実現するための基本事業

1



生きる力を育む体験・交流活動の充実

- 豊かな自然環境の中で、様々な体験活動を行い、心身共にたくましい「きりしまっ子」を育成するとともに、子どもたちが多様性を認め、豊かな感受性を養うための取組を推進します。
- 市内の高等教育機関*や事業所と連携し、科学体験やものづくり体験、職業体験を取り入れた取組を推進します。



2

地域ぐるみで子どもの成長を支える体制づくり

- 子どもが基本的な生活習慣を身に付け、自立した社会生活を送れるよう、地域学校協働活動を推進し、地域ぐるみで子育てを支援する環境整備を図ります。
- 親としての学びなど、家庭教育支援の学習機会や情報提供等を図るとともに、学校や地域、警察、校区青少年健全育成連絡会*などと連携して、青少年の健全育成に努めます。



3

多様な学びを支援する学習環境の充実

- 市民の多様化・高度化する学習ニーズへの対応や、市民が必要としている学習情報の提供に努めます。
- 機能が充実した図書館等の周知・広報による利用促進や、幅広い年代層・学習ニーズに対応した講座の充実に努めます。
- 社会教育施設の修繕等を通じ、市民が安全・安心に利用できる学習環境の整備に努めます。



4



文化財の保存・継承と活用

- 文化財に触れる史跡巡りや体験学習、歴史講座などを積極的に開催するとともに、郷土芸能の保存団体との連携、団体間の交流を推進します。
- 文化財の計画的な調査・研究、保存、見学環境の整備に努めるとともに、歴史・文化・自然・産業などに触れることのできる施設の充実に努め、文化財の活用を促進します。



「みんなができること」

everyone can do it!



市民一人一人で

- 自治会やPTA、子ども会など地域が計画する清掃等のボランティア活動や、異年齢での交流・体験活動へ積極的に参加しましょう。
- 家庭教育の充実を図り、読書の習慣化を促しましょう。
- 何事にも興味や関心を持ち、前向きに学習する意欲を持ちましょう。
- 各種講座等で学んだことをボランティア活動等の場で生かしましょう。
- 史跡巡りや歴史講座に参加し、ふるさとの歴史や文化財に触れましょう。



地域で

- 美化活動や高齢者との触れ合い活動などに取り組みましょう。
- PTAや子ども会など関係機関と連携して、青少年の健全育成や地域学校協働活動に取り組みましょう。
- 地域の文化財・郷土芸能などを保存・継承・活用する活動を推進しましょう。

INTERVIEW

文化財少年団
馬場 琴美 さん



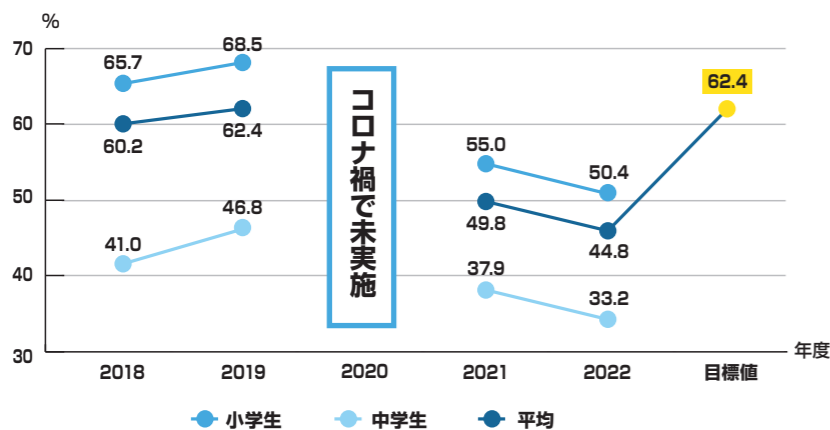
素晴らしい歴史や文化
私の誇りに

母の勧めで参加した文化財少年団。これまで何げなく訪れていた霧島神宮や鹿児島神宮、上野原縄文の森などは、全国的にも貴重な文化財で、面白い話がいくつもあることを初めて知りました。それ以来、地元の歴史や文化が好きになり、もっと知りたくなりました。そんな素晴らしいまちに住めることを誇らしく思います。

施策の進捗状況を測るためのKPI

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	44.8% (2022)	62.4%
学習している市民の割合	50.6% (2022)	53.1%
公民館定期講座申込者に占める新規申込者の割合	72.0% (2021)	77.0%
文化財保存・継承活動の実践者と参加者の人数	5,278人 (2021)	8,000人

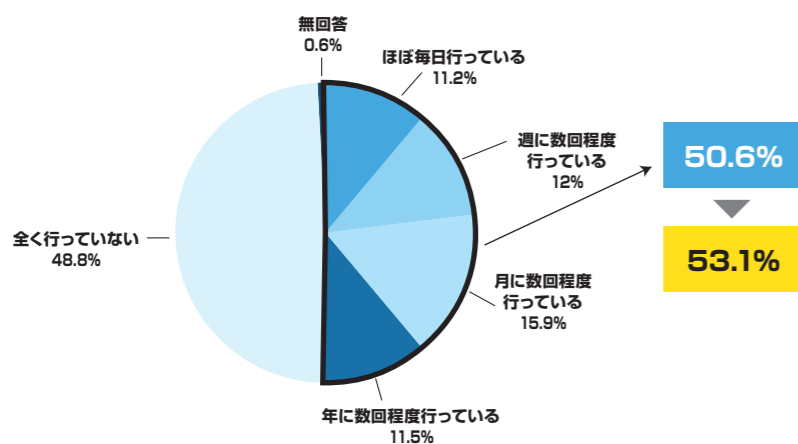
住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合



2020年度の調査はコロナ禍により未実施。2021年度以降は大きく落ち込んでいる。コロナ禍前の水準回復を目指す。

出典:全国学力・学習状況調査 (児童・生徒質問紙調査)

学習している市民の割合



現状値は設問「日頃から何らかの学習を行っているか」に「全く行っていない」と答えた人と無回答を除いた割合。現状値から2.5%増加を目指す。

出典:市民意識調査

Column 地域学校協働活動とは

地域学校協働活動とは、高齢者・学生・PTA・NPO・民間企業・団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、同時に、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う活動です。本市における取組としては、習字や英語学習、学校行事(運動会など)の指導補助、登下校時の児童の見守り活動、樹木の剪定や学校周辺の草刈り、花壇への水やりなどの環境美化活動まで幅広く、多くの方の協力により子どもたちの成長が支えられています。過疎化が進む地域などによっては、人材確保が困難な場合もあり、産官学*連携や交流人口*の増加、ICT*の活用など、さまざまな工夫が求められています。

運動会など)の指導補助、登下校時の児童の見守り活動、樹木の剪定や学校周辺の草刈り、花壇への水やりなどの環境美化活動まで幅広く、多くの方の協力により子どもたちの成長が支えられています。過疎化が進む地域などによっては、人材確保が困難な場合もあり、産官学*連携や交流人口*の増加、ICT*の活用など、さまざまな工夫が求められています。



関連個別計画	個別計画名	計画期間	個別計画名	計画期間
	第二次教育振興基本計画	2020~2024	子ども読書活動推進計画(第4次)	2024~2028

施策
4-3



スポーツ・文化に親しむ環境づくり

施策で目指す姿

- 市民が夢や希望を持って生涯にわたり、それぞれの志向に合ったスポーツやレクリエーション活動を継続できる環境づくりに取り組みます。
- 優れた芸術文化に触れることができるよう、多様なジャンルの芸術文化を楽しむことのできる機会を提供し、積極的な情報発信に努めます。

施策の現状と課題

スポーツに親しむ環境づくり

- 現状**
- 各種団体や関係機関と連携して各種スポーツ大会等を開催し、スポーツに親しむ機会やきっかけづくりを推進してきました。
 - スポーツ施設の安全・安心な管理運営を行うため、指定管理者*等と密に連携を図り、必要な修繕を行ってきました。

- 課題**
- コロナ禍で減少した市民の運動機会を再構築するため、さらなるスポーツ活動の普及を進める必要があります。
 - 利用者の安全性や利便性を考慮したスポーツ施設等の整備や修繕が必要です。

芸術文化活動の推進

- 現状**
- 関係機関と連携して各種イベントを開催し、市民が芸術文化に身近に親しむ機会を創出してきました。

- 課題**
- 市民が芸術文化に身近に触れ親しむ機会をつくるとともに、芸術文化を支える人材の育成や、まちづくりへの活用等にも積極的に取り組む必要があります。
 - 芸術文化活動の拠点施設である霧島市民会館の計画的な改修が必要です。

施策で目指す姿を実現するための基本事業

1



スポーツに親しむ環境づくりの推進

- スポーツキャンプや大会の誘致、トップアスリート選手等によるスポーツ教室、各地区スポーツ祭、霧島スポーツまつり*の開催など、スポーツに関わる関心層の拡大や競技スポーツの向上につながる取組を推進します。
- 多様化するニーズや社会環境の変化に対応した、新たな視点によるスポーツ指導者やコーディネーター役を担うスポーツ推進委員*の養成に努めます。
- 市民のスポーツ活動の拠点となるスポーツ施設の充実を図るため、老朽化した施設や設備の整備、バリアフリー*化を計画的に行います。



2



芸術文化に親しむ環境づくりの推進

- 関係機関と連携し、市民ニーズ等を踏まえた音楽・演劇などの芸術文化を享受できるイベントや、市民が優れた芸術に触れる機会の創出に努めます。また、各種メディアなどを活用した積極的な情報発信に努めます。
- 市文化協会や関係団体など、積極的に活動する芸術文化団体への支援や団体相互の交流の推進により、活動の活性化を図ります。
- 芸術文化活動の拠点施設である霧島市民会館の計画的な改修を進めます。



「みんなができること」

everyone can do it!



市民一人一人で

- 健康づくり・体力づくりのために、各地区スポーツ祭等に積極的に参加しましょう。
- 芸術活動や文化事業への積極的な参加等を通して、身近なまちの魅力を再認識・発見するよう努めましょう。



地域で

- 各地区スポーツ祭等に参加し、仲間づくりや地域づくりを進めましょう。



団体で

- 各スポーツ団体間で連携を図り、指導者の育成や選手の競技力の向上に努めましょう。
- 芸術文化団体等の会員や活動の拡充を図り、芸術文化活動を担う人材育成や、芸術文化に触れられる機会の創出に努めましょう。



INTERVIEW

スポーツ推進委員*
つるば 鶴田 光樹 さん



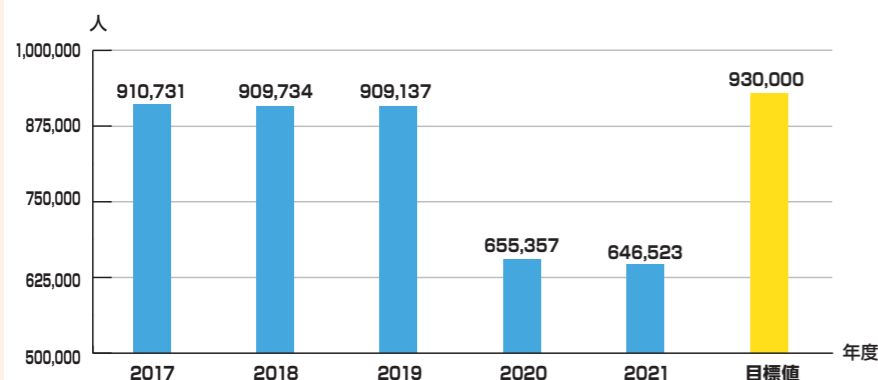
スポーツで自身の成長や
交流の拡大に

スポーツが好きで、推進員を務めて20年。公民館や学校、スポーツイベントで競技の技術や楽しさの普及に取り組んでいます。これまで体力が向上した方、成長を実感して自信を付けた方、仲間が増えた方を多く見てきました。霧島市はスポーツ施設やウォーキングなどの環境も良いので、ぜひ多くの方にスポーツに接してほしいですね。

施策の進捗状況を測るためのKPI

KPI (重要業績評価指標)	現状値	目標値
運動・スポーツを行っている市民の割合	63.8% (2022) ↑	68.8%
運動・スポーツを行いやすい環境が整っていると思う市民の割合	52.9% (2022) ↑	57.9%
市内の体育施設の年間延べ利用者数	646,523人 (2021) ↑	930,000人
芸術文化事業の実践者と鑑賞者の人数	49,692人 (2021) ↑	110,000人
芸術文化団体に所属している人数	2,346人 (2021) ↑	2,581人

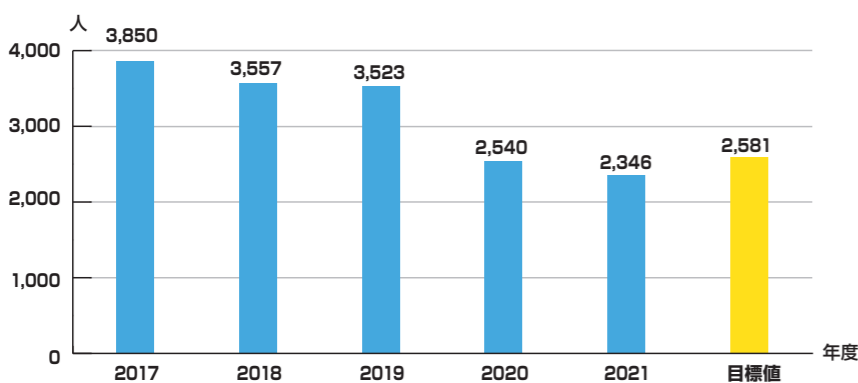
市内の体育施設の年間延べ利用者数



2020年度以降はコロナ禍により大きく落ち込んだ。スポーツに親しむ環境づくりを図ることで、コロナ禍前の水準回復を目指す。

出典:スポーツ・文化振興課

芸術文化団体に所属している人数



2020年度以降はコロナ禍により落ち込んだ。団体のさらなる活性化を図ることで、現状値から約10%の増加を目指す。

出典:スポーツ・文化振興課

Column 40年以上の歴史を誇る「霧島国際音楽祭」

「日本一」や「日本初」などは、地元にとって何よりの自慢。本市には、「日本最初の国立公園」や「日本一」に輝いた霧島茶・和牛など多くの自慢がありますが、40年以上の歴史を誇る「霧島国際音楽祭」もその一つです。

地元有志による手作りの演奏会が始まりで、今では毎年7月中旬から8月上旬にかけて世界各地で活躍する音楽家たちが集う「日本で最も歴史のある音楽祭」に成長しました。国際音響学会で「奇跡のホール」と称賛された霧島国際音楽ホール「みやまコンセール」を中心に、趣向を凝らした様々な演奏会が行われます。同時に、次世代を担う音楽家を育成する講習会も行われ、ここで学び、世界的な音楽家へと成長し、演奏者や講師として再び霧島に戻ってくるという伝統も根付いています。

会期中には、地域ならではの料理やおもてなしで住民と音楽祭参加者が交流する「シンフォニーの丘のビュッフェパーティ」も開かれ、芸術文化、観光振興、国際交流など様々な分野に恩恵をもたらしています。



個別計画名	計画期間	個別計画名	計画期間
第二次教育振興基本計画	2020~2024	健康きりしま21(第4次)	2023~2027
第2期スポーツ振興計画	2021~2028		